

麗しく 2023 年が明けました。まだ予断を許さない状況ながら、コロナ禍のなかで対面行事・授業などが戻りつつある昨今、教育・研究活動に以前のような活気の復調を感じ取っている会員も多いのではないかと拝察いたします。

さて、「地教史学通信」第 158 号をお届けします。内容は、①現地開催を予定している第 46 回大会の概要、②同大会における研究発表申込みのご案内、③事務連絡の 3 点です。

I. 2023 年度の第 46 回大会について

第 46 回大会は、軽部勝一郎幹事（甲南女子大学）ならびにシンポジウム担当の野口穂高幹事（早稲田大学）により鋭意準備中です。以下に概要を示しますので、宿泊先の確保等にお役立て下さい。



Google map より

なお、プログラムなどを含めた詳細については、3 月中・下旬発行予定の「通信」第 159 号で改めてご連絡します。多くの会員の発表申込み、ご参加をお待ちしています。

(1) 開催日 2023 年 5 月 27 日（土）・28 日（日）

(2) 会 場 以下の通りです。初日と 2 日目は位置が異なりますのでご注意ください。

① 5 月 27 日 史料見学会は甲南学園史資料室（甲南大学岡本キャンパス）にて学校法人甲南学園に関する史料を見学します。会場へは、JR 神戸線「摂津本山（せつつもとやま）」駅より徒歩 12 分、阪急神戸線「岡本」駅より徒歩 10 分です。

→詳細は甲南大学 HP (<https://www.konan-u.ac.jp/access/>)

懇親会はコロナ禍の情勢を鑑みて、開催の可否を検討して参ります。

② 5 月 28 日 研究発表・シンポジウム・総会は甲南女子大学にて行います。

会場へは JR 神戸線甲南山手駅より徒歩 15 分です。ほかにも複数のルートがありますので、次号にてご案内いたします。→詳細は甲南女子大学 HP (<https://www.konan-wu.ac.jp/access/>)

・ シンポジウムのテーマは「地域の教育史資料の収集・保存・活用（仮）」です。

提案者は野口穂高（早稲田大学）で、地域の教育史資料を保存する重要性や意義を再確認すると共に、以下の 2 点について議論することを通じ、今後の教育史資料の収集・保存・活用のあり方を探る目的のもと、準備を進めております。

①教育史資料の収集・保存・活用に関する現状と課題（災害やコロナ禍、学校の閉校・統合、個人情報保護、文書の電子化等々）

②資料の収集・保存・活用に向けたネットワークの構築やノウハウの共有など、今後の展望と取り組み

II. 第46回大会の研究発表申込みについて

第46回大会で研究発表を希望される会員は、次の要領で申込みをお願いします。なお、2022年度までの会費を完納されていることが条件となります。

- (1) e-mailでの申し込みを原則とします。本通信の末尾に記載してある事務局まで、
「①氏名、②所属、③メールアドレス、④題目、⑤概要(時期・対象がわかるようになるべく詳しく)、⑥使用機器に関する要望(パワーポイントその他)、⑦その他」
の7項目についてお知らせ下さい。なお、従来通りに郵送/FAXを希望される会員は、事務局まで上記①②④⑤⑥⑦の6項目をお知らせ下さい(様式は任意)。
- (2) 申込みのメ切は「2023年3月6日(月)」(必着)とさせていただきます。
- (3) 申込みを受理した会員には、3日以内に事務局から確認の連絡をお送りします。3月9日(木)までに連絡がない場合、お手数ですが、ご照会下さい。

◆寄贈図書(2023年1月23日事務局到着分)

- ・布施賢治『「日本型」育英事業の思想—尚武と錬成の近代—』日本経済評論社、2022年10月

全国地方教育史学会 事務局

〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28-20 東洋大学文学部教育学科 須田将司 研究室内

TEL/FAX 03-3945-7378

E-mail suda@toyo.jp

公式HP <https://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>
